



日高義久

ミニトマトの周年栽培 日高農園代表

社長に聞くと!

循環式のNFTにこだわり、
ミニトマトを周年栽培
周年出荷で築いた信用で安定経営

大学で出会ったトマトの水耕栽培が経営の柱!

Hidaka Yoshihisa

1964年旧北条市生まれ。中学生の頃から農作業が好きで、そのまま農業高校、農学部へと進学。大学で水耕栽培に出会い、卒業後すぐに就農。現在は、60アールのハウスでミニトマトを周年栽培すると共に、約7ヘクタールの水田で、水稻を栽培。趣味の釣りを楽しむために、作業効率を改善したら、トマトの成績まで良くなったと笑う46歳。

高縄山の麓、旧北条市の風早地区でミニトマト栽培一筋に取り組む日高農園代表 日高義久氏に、ミニトマト栽培への思いと共に、若い農業者へのエールを語ってもらった。

「農業をやるうと思われたきっかけは何だったんですか？」

日高 子供の頃、私は勉強より農作業の方が好きだったので、よく手伝っていたんですよね。中学校2年の時に高校は農業高校に行きたいなと思っただけでした。将来、農業をやるうとまでは当時は思わなかったかも知れませんが、二応、農業高校に行つこうかなという事で進学しました。結局、大学も農学部に入って、そこで水耕栽培に出会い、卒論もトマトの水耕栽培につ

循環式のNFTでミニトマトを周年栽培 周年出荷で築いた信用で安定経営

いて仕上げました。

―卒業してすぐに

就農されたわけですか？

日高 私たちが大学を出た頃は、バブルで物凄く景気が良かった時期で、就職は選り取り見取りでした。私も、神奈川県の水耕栽培に取り組んでいる企業などから誘われたんですが、「自分でやります」って、全部断ったんですよ。今考えれば行っておけば良かったんですけどね(笑)。

―就農された当時、お父さんはどのような経営をされていたんですか？

日高 父は若い頃に養鶏をしていたんですよ。まだ養鶏もいい時代だったんですが、オイルショック等とかで経営が難しくなって、スパッと養鶏をやめたんです。それで、5ヘクタールの水稲を中心に、裏作でタマネギやキャベツ、ソラマ

メといった北条の3野菜を栽培する水田経営を始めたそうです。当時はそれらを北条で一番多いくらいの量を作っていたみたいです。

―日高さん自身がこちらに帰られて、何をされたんですか？

日高 とりあえず親の手伝いをしていたところ、県経済連(当時)にイチゴの水耕栽培をやってみないかと誘われて、循環式のNFTでイチゴの水耕栽培を始めました。NFTっていうのは、ごく緩やかな傾斜をつけた栽培槽に少量の培養液を流して植物を生育させる方式です。

最初は10アールから始めてうまくいきましたので、翌年に20アールまでイチゴを増やしたんですけど、これが全然うまくできませんでした。最初は『宝交早生』を栽培して、収量もすごく良かったんですが、市場の品種が『と

よのか』や『女峰』に変わりつつあった時期でしたので、2年目からは『とよのか』に変更しました。そして、収量が全く上がらないですよ。それで、うちと同じシステムのある農業試験場(当時)に行つて色々教えてもらったりしました。そうしたら、試験場ではうまくできるのに、うちでは相変わらずダメで…。結局、ハウスの規模の違いによる温度環境の差が問題だったんだろうと思います。

―それで、イチゴからトマトに変えられた訳ですか？

日高 NFTのイチゴ20アール分の資材で、トマトだったら30アール分くらいのシステムが出来るんですよ。それで、3年目は10アールをミニトマトにして植えて初夏までの長期一作採りで15t採れたんですよ。これはいけそうと



日高農園の4号ハウス。6連棟で約17アールの広さがある

いう感触でしたので、次の年にもう10アールもミニトマトにしました。その後、平成4年に400坪のハウスを無利子の資金を借りて建てました。あと平成7年に520坪のハウス、平成10年に10アールのハウスを建てました。

―日高さんのハウスは鉄骨(H鋼)ですから、かなりの資金がかかりますよね。

日高 そうなんです。平成4年は3千万円、平成7年には4千万円の長期低金利資金を借りてハウスを建てました。ただ、平成10年に建てたハウス

は、資金を使いすぎましたので、韓国のハウスを自分で買って500万円建てました。これは材料代だけで、韓国製のハウスを代理店から買ったんですけど、届いてみると、図面はハンゲル文字で読めないのが、代理店に聞いたら、「建て方を教えたなら施工費がかかります」って。ですから、自分で柱に品番を打って、自分で組み立てました。それでハウス面積は約60アールになりました。

―60アールのハウスは、
―1ヶ所にまとまっているんですか？

日高 連棟ハウスが5ヶ所に分かれてあります。平成4年にハウスを建てる前に、父がハウスでもしたらいいって、国道から家の裏の道まで50アールの農地をまとめていたんですよ。そしたら、北条市に工業団地が来るってことになって、北条市がどうしても誘致したいから譲ってくれと…。農業が出来ないなら就職の世話もしますとか言われたりね(笑)。

結局、ハウスを1ヶ所にするのと比べて、電気の配線とか設備も全部別々に設置しなければいけないので、余分な経費がかかってしまいました。



日高農園のハウス建設の記録。お母さんからのエールが記されている

―ミニトマト以外の作物の栽培は？

日高 水稲を7ヘクタール栽培しています。それらの田んぼはほとんど借地です。

―ミニトマトは栽培面積が60アールもあって、作型はどうされているんですか？

日高 当初の長期1作ではなくて、半年で植え替える年2作の作型を、定植時期をずらして周年栽培しています。ですから、常に収穫しているハウスが3ヶ所くらいで、残りの2ヶ所は育苗とか生育中ということになります。

―海拔が低い所で夏にも収穫する周年栽培っていうのは、難しいんじゃないですか？

日高 確かに、夏は高温障害とかが出て、山で作るようにはいかないこともありますけど、1応は周年栽培できています。水耕栽培で年2作だと1作が半年位になりますので、草勢がもつてきたい出来るんですよ。それが、年1作の長期栽培だと、後半になるとどうしても実が柔らかくなったりしやすいですけどね。

―日高さんの販売先は？

日高 うちは今全量共販で、農協を通じた市場行きと、全農の青果直販センターから生協や全農の店とかに行くのがほとんどですね。ただ、農協を通して共販と言っても、北条市農協の時代から、全農の箱に名前も印刷して、松山青果(株)に出しているんです。主な販売店は、全農のコープ愛媛と、三越やエミフルM A S A K Iとかにある全農のコーナーです。

―他に直売所とかでは販売していないんですか？

日高 以前は、地元にある道の駅「風

和里」の直売所にも出していたんですけど、出荷する人が多くなったので辞めました。

今は、ハトマート北条の直売コーナーに出しています。それと、伊予鉄高島屋の地階にある「(株)ころくや」さんにも出荷しています。「ころくや」とは年間契約で、一週間に2回、年間同一単価で販売しているんですが、もう6年続いているんです。

―「ころくや」と
知り合ったきっかけは？

日高 高校の同級生がたまたま「ころくや」さんで働いていて、彼とお正月にバーガーショップでバッタリ会ったのがきっかけです。で、彼に「ミニトマト作ってる」って言ったら、「じゃあ今度店長連れて行くよ」ってところから取引してくれるようになりました。それからずっと取引していただいています。商品名を「何にしましょうか」って聞かれたので、「日高さんのトマト」で売れるんじゃない」って言ったところ、本当に「日高さんのトマト」って商品名で売っていただいています。

―出荷割合は？

日高 そうですね…。「ころくや」さん



ミニトマトの栽培状況。果実の着色が始まり、いよいよ収穫が始まる

とハトマート北条が数パーセントで、あとは全農と松山青果(株)が半々くらいですね。松山青果を通じては、サニーマートにもうちのミニトマトが行っています。

―毎日の出荷量は、どのように決めているんですか？

日高 全農からは2〜3週間前に注文が入りますから、まずその量は確保するようにしています。で、その残りを松山青果に送ることになります。ですから、松山青果のミニトマト担当の人には毎日荷造りが出来たら、翌日の

数量をすぐメールで送っているんですよ。

ただ、全農の注文が入るのが、さっきも言ったように2〜3週間前でその時に単価も決まるわけですから、品薄で単価が高い時なんかは、逆にうちのがすごく安いって場合があるんですよ。でも、信用がかかってますので、全農に出しますけどね…。

―信用を大事にされているわけですね。

日高 市場と比べて、こんなに安くって両親に言われることもありますけどね(笑)。でも、今後のこともあるから話しているんですよ。まあ、年間通したら、全農の方がちよつといみたいですよ…。全農は通いのコンテナがあって、無選別で出荷できるから荷造りの経費がいらないうすよね。

―今の生産量は、60アールで年間どのくらいですか？最初の年の15tって単収からすると、90tになるのですが…

日高 それがね、面積を増やすと収量がどうしても減ってしまつて、おまけに年2作にしたら、植え替えの間の収穫できない期間がありますから…。今まで一度も一年間全てのハウスがまとも

に出来たことが無いんですよ(笑)。やっぱり、どこかが行き届かなくなるんじゃないかね。

当たり前のように普通に作るのが農業の頂点だと私は思っているんですが、それがなかなか難しい。一作で10アール当たり5t採れて、それを年に二作作つて10t、60アールで年間60t採るというのが目標ですね。

ただ、ハウスが5ヶ所に分かれていまして、真面目に見て回ろうと思つたら時間が足りないんですよ…。仮に60アールで60t採れて、キロ単価も500円位だったなら、3000万円の売り上げがあつて、それなら農業もやっていけるかなと思いますけど、全然無いしなあ…(笑)。

―季節的な収量の変動は？

日高 5〜6月で全体の3分の1位は採れてしまうかな…。ミニトマトの場合、夏場は開花から30〜40日くらいで収穫できるんですが、冬は60〜90日位かかるんですよ。年二作ですので、5月には2か月分咲いたのが一気に採れまますから、本当に3分の1くらいが5〜6月に出してしまいます。逆に2月から4月の初めまでと夏場の8月から9月くらいが少ないから単価もいいですね。

収穫を待つミニトマト



―労働力は？

日高 私と妻と両親に加えて、収穫作業に専属で2人雇っています。荷造りは、兄の嫁さんとうちの嫁さんを中心に両親と、忙しい時に臨時でもう一人来てもらつてます。収穫を担当してもらっている二人は周年です。やっぱり作業の慣れもあるし、雇つたら周年で仕事が必要ですけど、うちはその点、周年栽培ですのでうまくいっています。



―栽培管理の人数は？

日高 私たち夫婦と両親を中心に、収穫の人も手が空いているときは一般作業も手伝ってもらったりですね。

―栽培管理はどのようにされているんですか？

日高 普通の斜め誘引ですね。年に2作ですから、斜めに誘引して上までいったら芯止めして、巻き下げて下げるようにしています。収穫に合わせて高さ

を下げないと採りにくいですからね。今作っている『小鈴SP』って品種は、ものすごく節間が短いので、誘引が普通のミニトマトに比べてかなり省力的ですね。

―経営について大変な点や工夫している点は？

日高 やっぱりお金の苦労ですよ。原油が上がって、重油の単価とかが倍になったんですよ。ミニトマトを始めたころは、最低温度が12℃以上、養液の温度は20℃とか言われていたんですが、重油が上がったので、今、最低気温は10℃に設定しているし、水温も17℃ぐらいに下がっていますが、あまり変わらないくらい出ています。

また、栽培上の工夫って言ったなら、1年2作にしたのもひとつですね。それでかなり省力になったし、草勢が後半まで維持できますので、病気の発生も少なく、防除回数も長期1作より少なくてすみますからね。

―長期1作と比べて、作業が省力できているわけですね。

日高 あとは細々した作業ですが、品質維持のためのホルモン処理は全部私が一人で行っているんですよ。コンプレッ

サーを使った機械を自分で作って、圧をかけて楽に処理できるように工夫しています。ミニトマトは一週間に一回、咲いている花にホルモン処理しないとダメじゃないから。

それと、あとは病害虫ですね。黄化葉巻病対策で、今は全部のハウスの開口部に0.4mm目のネットを張っています。ミニトマトを始めた頃は、トマトにはあまり害虫はいなかったんですけどね。

―他に作業の省力化とかで工夫されていることは？

日高 毎日、何か楽にならないかって、



コンプレッサーを利用したトマトトーン処理器。これで作業もだいぶ楽に……！

所懸命考えてます。趣味みたいに農業が好きなら、日中用事を作ったりするでしょうけど、私は仕事だと思って、なるべく作業効率を上げて、作業時間を縮めようとしています。

―先ほど話に出た「ころくや」さんやサニーマートって、生産者を中心に選ぶお店って聞いているんですが、どういう点をPRされているんですか？

日高 なんででしょうね(笑)。うちの水耕栽培は循環式のNFTですから、廃液を栽培システムの外に排出しませんで、環境にやさしいってことは言えますけど……。

―肥料は何を使われているんですか？

日高 全農から使うように言われたのを使っています。NFTでミニトマトを作ったら、土耕栽培に比べて間違いなく酸度が低くなるんですよ。あとは完璧ではない作り方がストレスになつて味がいいのかもしれない(笑)。それくらいで、別に特殊な栽培法はしていませんよ。

「ころくや」さんやサニーマートさんがうちと取引してくれる一番の理由は、周年栽培だからだと思っんです



よ。一年中出荷できますからね。

特殊な栽培方法のトマトは二期し
かないんですよ。それに量も限られて
くるでしょう。

うちのは周年出荷できることと、収
量が落ちない程度に味が良くなるよ
うな工夫はしていますから、そこらへん
が良かったんじゃないですかね。

でも、全部のハウスがまともに出来
て、10アールで10t以上採れてつてなっ
たら、今度は美味しくなくなつて誰も
買ってくれなくなるかもしれませんし
ね(笑)。

収量は増やそうと思えば増やせる
でしょうけど、味と両立させて、美味し
いところで、そこそこ収量も採れる、こ
れが難しく、今まですべてのハウスで
達成したことがないんですよ(笑)。

ー栽培上の今後の目標は？

日高 う〜ん、やっぱり全部のハウスを
まともに作ることですね。年間通じて
同じ量を出荷出来るようにしたいと
は思っているけども…。

販売ではもう一ヶ所、去年くらいから
三津浜のイーファーマーズに注文が入っ
たら出荷しています。販売は向こうに
任せているんですが、楽天市場とかのイ
ンターネットで販売しているみたいです
ね。

ーお米の販売先は？

日高 全部自分で販売しています。
市内の弁当屋さんと契約したり、イー
ファーマーズもだいぶ売ってくれていま
すし…。

7ヘクタール分ですから、30kg袋に
して、1,000袋位になりますので、
800袋位入る冷蔵庫を置いているん
ですよ。

ー経営の目標は？

日高 そうですね。とりあえず現状
を維持することですね。

あとは中の息子が百姓をしてもい
いみたいなことを言ってるから、その時
はまた変わるかもしれないですね。本当
に後を継いでくれたら、私も楽でき
ると思つて(笑)。

百姓はいかんつて言う人もいるけど、
私はそうは思つてませんからね。

ー日高さんの趣味は？

日高 釣りですね。元から釣りは好
きで夜釣りにはよく行つていたんです
けど、3年前前について船を買いまし
てね。それから、毎週釣りに行つてい
るんですが、1週間に1日釣りのために空
けようとする、物凄く効率的に作
業ができるようになって、本当に無駄の
ない動きが出来るようになったん
ですよ。

それで、3年前くらいから、トマトも
調子よく出来るようになりましたしね
(笑)。

ー相乗効果ですね。それでは最後
に、これから農業を頑張ろうとい
う人にアドバイスを頂けますか？

日高 私もそうでしたけど、農業を始
める、水耕栽培を始めるつて人は何か

わからないことがあつても、案外、他の
人に聞かないんですよ。でも、皆が今ま
で試してきたことをして失敗するよ
り、取り敢えずトップで栽培している
人の真似をしたら、そのレベルに近づく
ことができますよ。そこから先を自
分で工夫する方がいいと思つし、真似
から始めたんでいいと思つすよ、最初
は…。

2、3年前も同じNFTでイチゴ栽
培を始めている農家さんと話してた
ら、自分と同じ失敗をしているんです
よ。本当に儲けている人の真似をした
ら、いきなりかなりなところまで追いつ
けるわけですから、そうした方がいい
んじゃないかなって思つすよ。

私もトマトを始めるに当たつては、徳
島でトマトを作っている人の所に1泊2
日で行つて、それこそノート1冊が埋ま
るくらいぎつしり教えてもらいました
し、ミニトマトの年一作による周年栽培
についても、愛知県で実際にやつている
人のハウスを見に行つたりしました。

もちろん自分で勉強することも必
要ですけど、まずはうまくいつている
人の真似をして、ある程度のレベルまで
いつてから、色々自分で工夫するつてい
うのがいいんじゃないかと思つす。